

勝林寺寺報



阪神大震災に思う

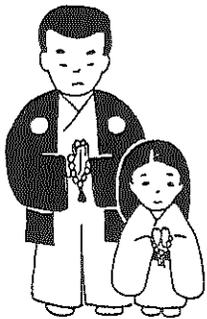
去る一月十七日の未明におそった阪神大震災は、本当に恐ろしい出来事でありました。被災者は三十万人におよび、死者も五千人を超えました。まことに悲しく痛ましい限りであり、心より哀悼の意を表し、お見舞い申し上げる次第です。私の親しい知人の中にも、そのために亡くなられたり、家屋が全壊や全焼などの被害を受けられており、心より同情いたすところです。被害の状況を、テレビや新聞で見ていると、

五十年前に経験した戦争の空襲の跡、また広島原爆の悲惨さを思い出しました。改めて自然の威力の恐ろしさと、人間の力のもろさを思い知らされたことでした。まことに土地が裂け、大地が揺れるということは、私たちの生存の基盤が根底から否定されることを意味し、これほど恐ろしいことはありません。しかしながら、また、私たちはこのような逆縁を通してこそ、いよいよ仏さまのお心を学ぶべきであると思えます。

ずっと以前に、京都のある寺の住職からこんな話をきいたことがあります。かつて大正十二年（一九二三）九月一日に起きた関東大震災にまつわるお話です。このお寺では古くから日曜学校を開いておりました。そしてその日曜学校では、いつも礼拝の時に、「たとえ天が裂け、地が破れようとも、阿弥陀様のお慈悲には変わりはありません」という言葉を、みんなで唱えていたのだそうです。この日曜学校で学んだ一人

の若者が、東京に出てある履物屋に勤めました。まじめに働いたので主人にも認められ、やがて経済的にも支援されて、一軒の履物屋をひらくことになりました。商売も順調にすすみ、お嫁さんも迎え、子供も生まれました。とても幸せな人生が続いていました。ところがそこに関東大震災が襲ったのです。家は全焼し奥さんも子供もみんな死んでしまいました。全くの無一文、一人ぼっちになったのです。そのとき、この人はその焼け跡にたえず、生きる気力をまったく失いました。そしてもう死ぬる以外に道はないと思えました。やつと海岸までたどりつき、いよいよ海に向かつて身を投げようとした。そのとき、思わず両手を合わせましたが、そのとたん、昔の子供のころに日曜学校で唱えていた、あの「たとえ天が裂け、地が破れようとも、阿弥陀さまのお慈悲に変わりはありません」という言葉が、頭によみがえったといえます。そこでこの人は、「天が裂け、地が破れる」とは、今度の地震のことだろうが、この地震で何もかも変わってしまったのに、まだ変わらない阿弥陀さまのお慈悲とは何だろうか、と思いました。そう思うと、そのことだけはちやんとしりたいものと、再び東京にひきかえしてきました。その後、一生懸命に聴聞することとなり、ついに、お念仏を喜ぶ身となったということです。ほんとうに、阿弥陀さまのお慈悲こそ、いつでも、どこでも、変わることもなく、私たち一人ひとりをしっかり見守っていてくださるのであります。このことだけは、どんな時でも、決して忘れない日暮しをしまいらましよう。

（信楽峻摩遺稿法語集より引用）



賀春



新年あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ申し上げます

勝林寺 住職

西池匡紹

坊守

西池美幸

後継住職

西池深音

前任住職

西池哲俊

西池入海

西池希里

中島武志

大石正和

田中重雄

永井孝一郎

玉井克弥

中嶋英樹

湯口博文

田中嘉信

永井正人

稲葉保夫

山田博文

坂本 智

足立幸夫

横山廣義

齋藤庄治

数森浩昭

兼井正美

岸下菊美

湯口里美

宮嶋まゆみ

渋谷順子

齋藤きく枝

宮嶋康子

齋藤昌子

岩上加代子

坂本 貢

濱 嘉子

大月千鶴子

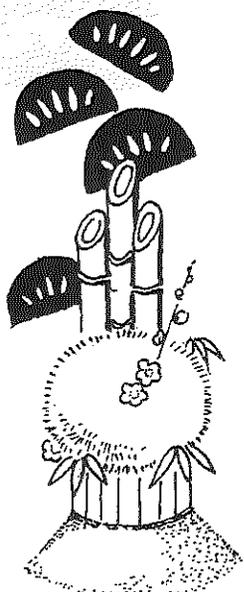
出石組仏婦会長

平野睦美

一月 勝林寺 予定

一日(金)	元旦
四日(月)	但東方面 年始
六日(水)	勝林寺 監査
九日(土)	勝林寺 総代会
一〇日(日)	成人式
一日(月)	坪口 報恩講
二日(火)	坪口 報恩講
三日(水)	和屋・出石A 報恩講
四日(木)	出石B 報恩講
五日(金)	出石C 報恩講
六日(土)	勝林寺 代議員会
七日(日)	榎見 報恩講 女中講
八日(月)	榎見 報恩講
九日(火)	榎見 報恩講
一〇日(水)	勝林寺 仏壯 三役会
二六日(火)	みのりを聞く会
二七日(水)	勝林寺 仏壯 役員会

(敬称略)



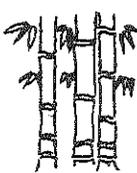
勝林寺今昔

新しいことはなかなかおぼえることができない
くなりまし。昔のことなら、よく覚えてい
と自負していましたが、それも次第に危うくな
つてまいりました。つれづれなるままに勝林寺
の今昔を思い出してみます。

私が子供のころ、今の出石町内町あたりは、
城から以西、出石川本流までの土地は、広大な
空き地でした。今の水天宮(柳町)のある出石
川畔までの城に近い部分のもと、乗馬訓練の馬
場があったといひます。だから、その一帯は広
い草原であつて、梨の木などがところどころに
植えてありました。城の石垣から少し離れた西
側には、材木置き場、製材所、おがくず山、そ
して材木運搬の大型トラックの通路で埋め尽く
されていきました。勝林寺と製材所の境界には、
杉の木が一行に植えてあつたように思います。
後に、城に一番近いところに、まず、機織り工
場とその社員寮ができました。つづいてその手
前に出石焼きの「永沢製陶工場」ができてにぎ
やかにになりました。現在、勝林寺の裏を流れる
谷山川ができたのは、昭和六年から七年ごろだ
つたと思ひます。小人町から谷山、谷山から鯉
山(あじやま)峠まで、ほぼ一直線に掘り進ん
でいきました。当時は、手掘りで、掘った土は
トロッコで運んでいました。終業時刻を待つて、
子供は、そのトロッコに乗つてよく遊んだもの
です。

でしよう、本堂の濡れ縁などは、すでにずいぶ
ん虫食ひでありました。室内も、金箔などの装
飾などないままの、きわめて質素なたたずまい
でありましたが、母は毎日内陣のから拭きを欠
かさず、いつも光つておりました。本堂の外陣
には、結果といつて僧侶の席と参詣席とを隔て
る扉がありました。また「高座」とよばれるお
説教される方が座られる一メートル以上もある
台座がありました。庫裏は、古い民家に入つた
ので、大きな屋敷ではありませんが、ずいぶん
と朽ちていました。六間総二階、中の間は、本
堂が完成するまでの仏間であつて、二階までぶ
ち抜きの須弥壇がありました。平生の花は母が
活けていましたが、報恩講などの法要のときは、
坪口にあつた時からの引き続きで、坂本新之
助・庄太郎兄弟が専属で荘厳してくださつてい
ました。荘厳こそ今では住職や坊守がしていま
すが、報恩講のお斎作りは、今でも、坪口・榎
見の方が手伝つてくださつていますのは、その
ころからの名残です。ありがたいことです。

祝成人!



(文責 前住職)

成人式を迎えられました皆様、ご家族の皆様。
誠にめでとうございませす。いのちの尊さに目
覚め、感謝の日々を送られますことを念じます。

- | | | | |
|-----|-----|----|------------|
| 出石町 | 内町 | 西池 | 希里さん(匡紹様) |
| | 柳町 | 玉井 | 秀憲さん(輝彦様) |
| | 鍛冶屋 | 中川 | 諒也さん(俊隆様) |
| | 福住 | 山下 | 稜太さん(充良様) |
| 但東町 | 栗尾 | 兼井 | 功太郎さん(康邦様) |
| | 市場 | 大石 | 智さん(英明様) |
| | 小谷 | 宮篤 | 華菜絵さん(義明様) |
| | 正法寺 | 森友 | 健太さん(強様) |
| 加古川 | | 成田 | 昂平さん(浩様) |

法語カレンダー一月号(H.Pより一部抜粋)

十二のひかり 放ちます

あまたの国を照します

一月の第二月曜日は成人式です。数年前の大阪
池田市でのこと。成人式が始まると、会場の最
前列に陣取つた数人の新成人たちがヤジをとば
して騒ぎ出しました。会場に嫌な空気が漂いだ
した中で登場したのが当日のゲストの漫才コン
ビ、ミサイルマン。ミサイルマンは騒ぐ彼らに
話しかけながら、会場の笑いを誘つていきます。
ふざけて壇上に上ろうとしていた者を、實際
に上げてしまつてトークを展開していくと、当
意即妙なアドリブで会場は大爆笑です。その笑
いは決して相手をおとしめるものではなく、ち
やんと存在を認めてこそ生まれたものでした。
やがて、騒いでいた新成人たちは素直に席に戻
り、なごやかな雰囲気の中でミサイルマンは本
来のネタに入つていったとのこと。(釈徹宗氏記
事より)成人式の目的は、参加者の誰もが晴れ
やかな気持ちで新成人を祝うことです。そのた
めにルールを守らせようとするのですが、往々
にして、ルールを守ること自体が目的にすりか
わり、主役さえ交代させます。手段と目的を取
り違えない。そして、人を生かすのは毅然とし
た一律な命令ではなく、一人ひとりのそれぞれ
を照らすひかりです。そのひかりのはたらきを、
正信偈では「十二のひかり」とお示しください
ました。限りなく(無量光)どこまでも広がり
(无边光)何ものにも遮られず(無碍光)並ぶ
ものなく(無对光)いきいきと(光炎王)清ら
かに(清浄光)よろこびを与え(歡喜光)感
を除き(智慧光)常に(不断光)私の想像も表
現も超え(難思光・無称光)現実の光が及ばな
いところをも照らし出す(超日月光)
智慧としての、ひかり。その中で私は今、生か
されています。 松本智量

どすん

新しい年のスタートに当たり、恒例
「二〇一五 勝林寺七大ニュース」
をお届けします。

第七位 入海 龍谷大学合格!

十分な準備をしないまま挑んだ
(ように見えた)試験でしたが、合格通知をい
ただきました。大学では、農学を勉強します。

第六位 希里 大人の仲間入り!

四月の誕生日で二十歳になりました。一日日
には、地元の成人式に参加します。振袖を着た
晴れ姿、また見てやってください。

第五位 深音 おばあちゃんの畑を完成させる

畑までの道のりが苦痛になったおばあちゃん
のために、庭先に畑を作つてあげました。大喜
びさせ、寿命を確実に五年は延ばしました(笑)

第四位 前住職 感謝状をいただく

出石社における長年のボランティア活動に対
して、感謝状をいただきました。活動させてい
ただいていたことに、こちらが感謝しています。

第三位 坊守 市民の代表になる!

地方創生戦略会議委員となり、豊岡の未来に
ついて考える機会をいただき、精いっぱい考え
ました。しかし、所詮おばちゃんには、明日の
ことを考えることが精いっぱい、役不足を痛
感しました(涙)

第二位 住職 一〇回目のPTA会長就任

三人の子たちがお世話になつた小、中、高そ
れぞれの学校で、縁あつてPTA会長を仰せつ
かり、入海が最終学年の今年、記念すべき一〇
回目をさせていただきます。感謝です。

第一位 勝林寺 前坊守二五回忌法要勤修

多くの方々のお力添えのおかげによつて、前
坊守の二十五回忌法要を無事に勤めさせていた
できました。前坊守からバトンを受け継いだ私
としては、ひとつ法要を終えるたびに、心から
ほつと安堵します。さて、二〇一六年版はどん
なことがお知らせできるかなー(文責 坊守)